

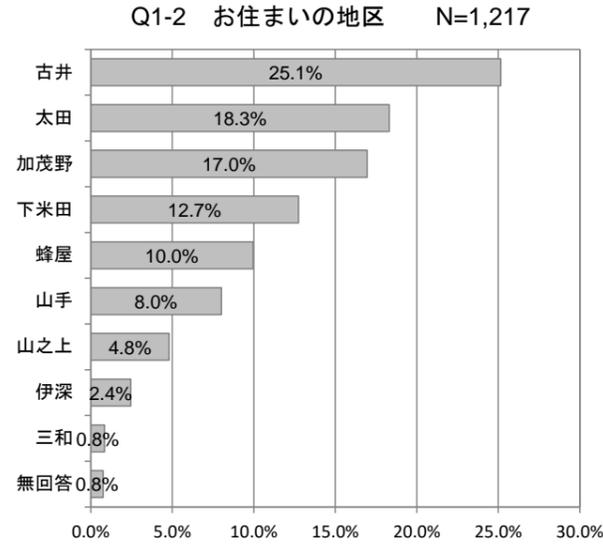
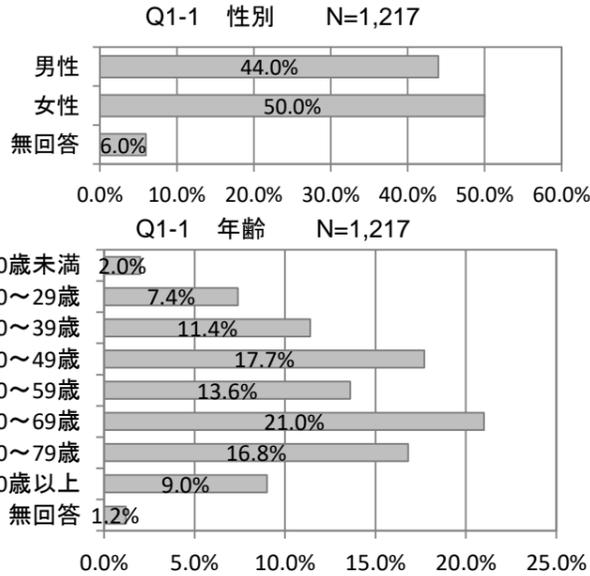
# 美濃加茂立地適正化計画策定に関する意向調査結果の概要

■対象：市内在住の18歳以上の方3,000人（無作為抽出） ■調査期間：H30年9月11日~9月25日  
 ■配布数：3,000 ■有効回答：1,217（有効回収率 40.6%）

注:以下の「MA」は複数回答の意味

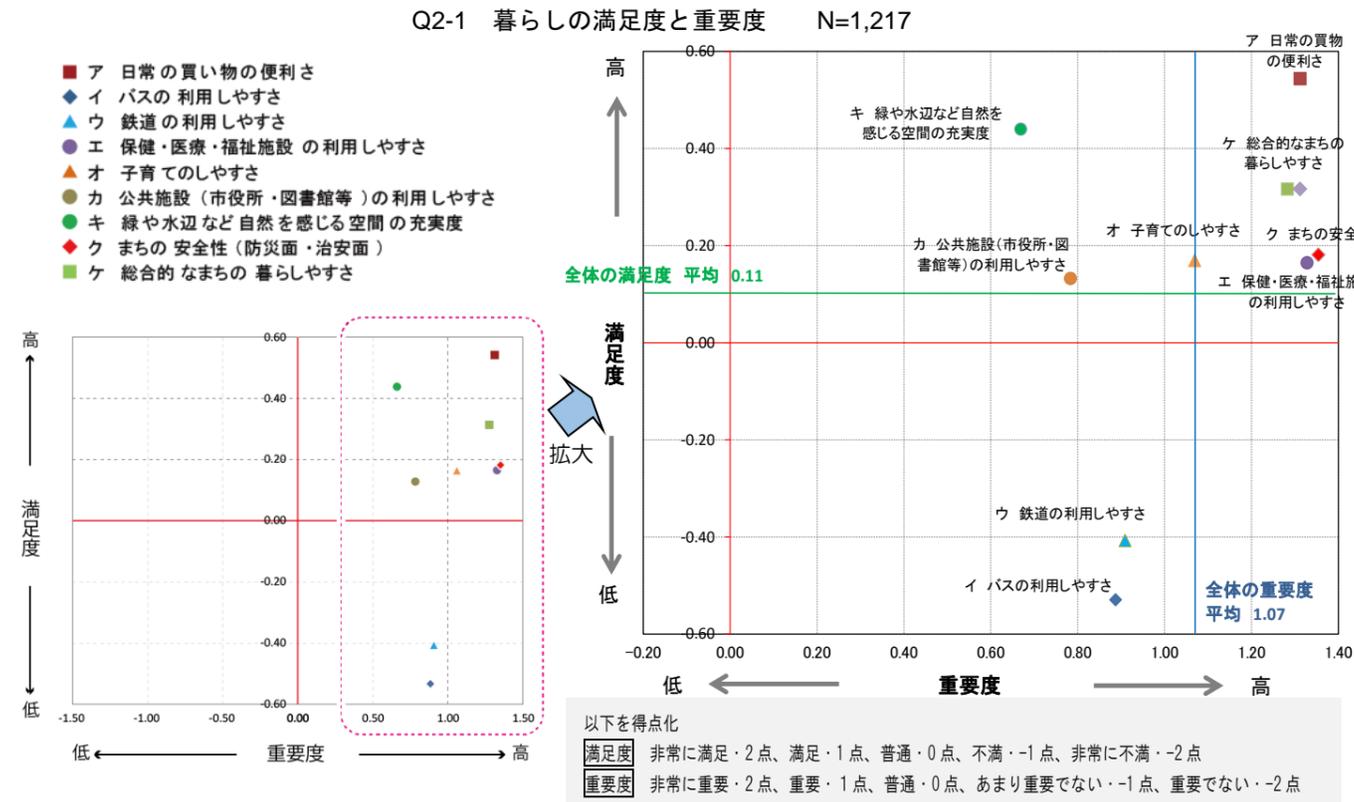
## ■回答者属性

- 性別では女性が多く、年代では、60代、40代、70代、50代、30代の順に多い。
- 地域別では、古井、太田、加茂野、下米田、蜂屋の順に多い。



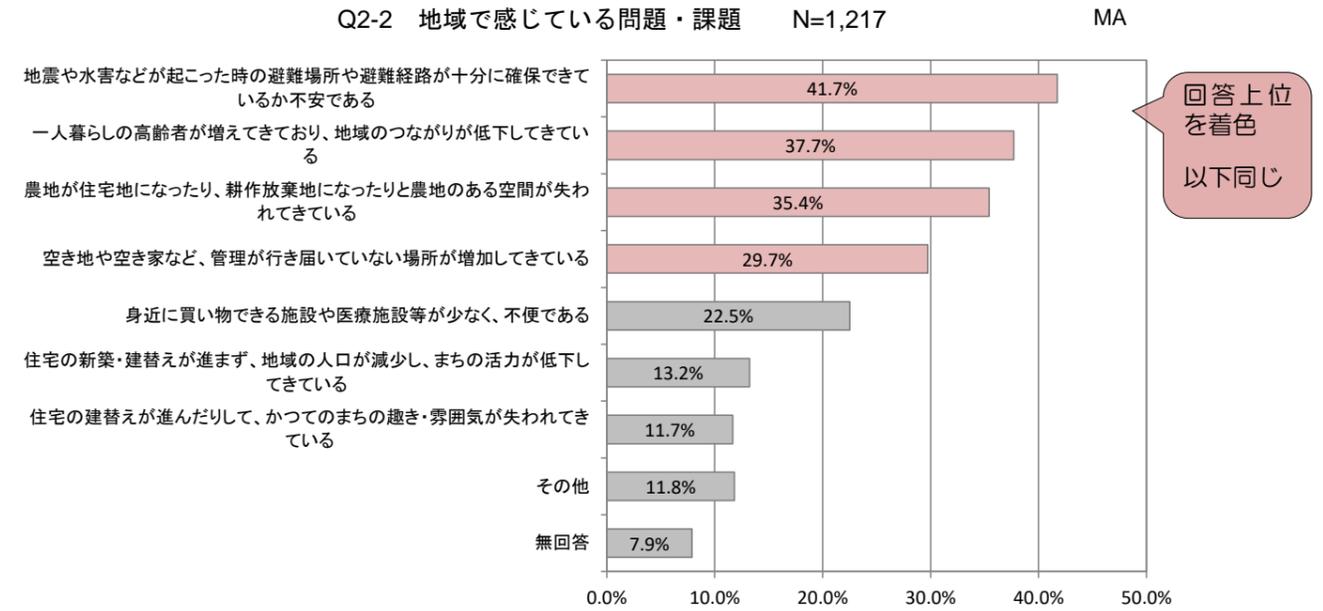
## ■現状評価

- 現状での評価は、公共交通の利便性で満足度が低くなっているものの、各項目とも総じて満足度は高い傾向にある。
- 各項目の相対評価をみると、日常的な生活分野で満足度も重要度も高く、公共施設や自然環境では満足度が高いものの重要度は平均以下、公共交通については重要度は平均以下となり、各項目のなかでは公共交通の利便性が最も改善が望まれる項目となる。



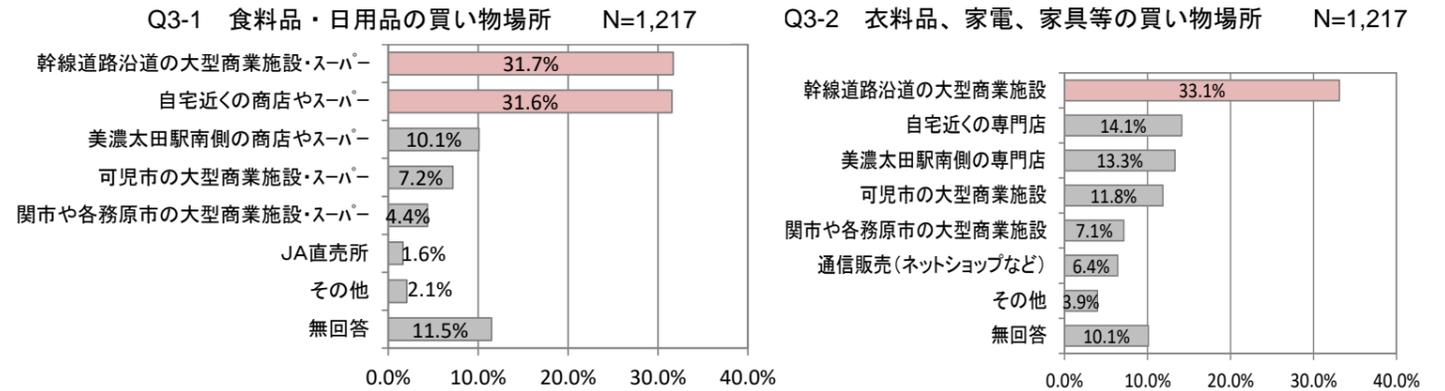
## ■問題・課題

- 「災害時における不安」、「高齢化と地域のつながりの低下」、「農地空間のあり方」、「空き地・空き家の管理不全」といった事項に対する問題意識が高くなっている。

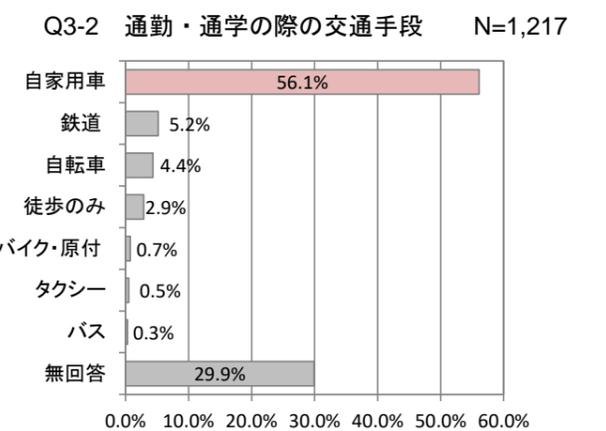
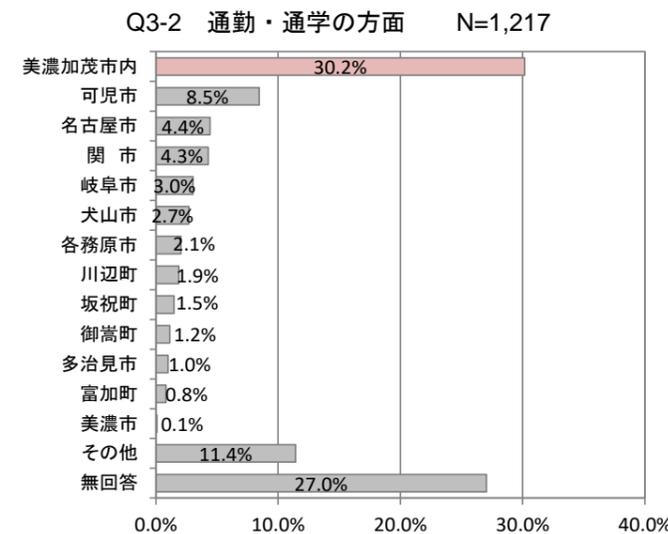


## ■生活行動

- 日用品等の買物は幹線道路沿道の大型商業施設や市内スーパー、買い回り品も同様に幹線道路沿道の大型商業施設の利用が主であり、交通手段は圧倒的に自家用車が多く約9割となっている。

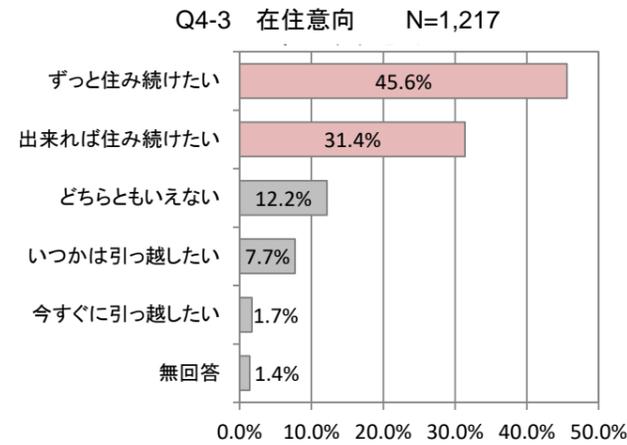
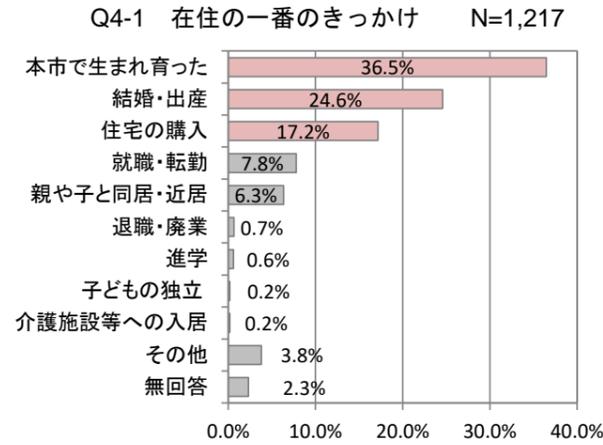


- 通勤通学は市内が多いものの、周辺部の可児市・関市などのほか、名古屋市や岐阜市への通勤も一定あり。
- 通勤においても車利用が半数を上回る。鉄道は5.1%に過ぎない。

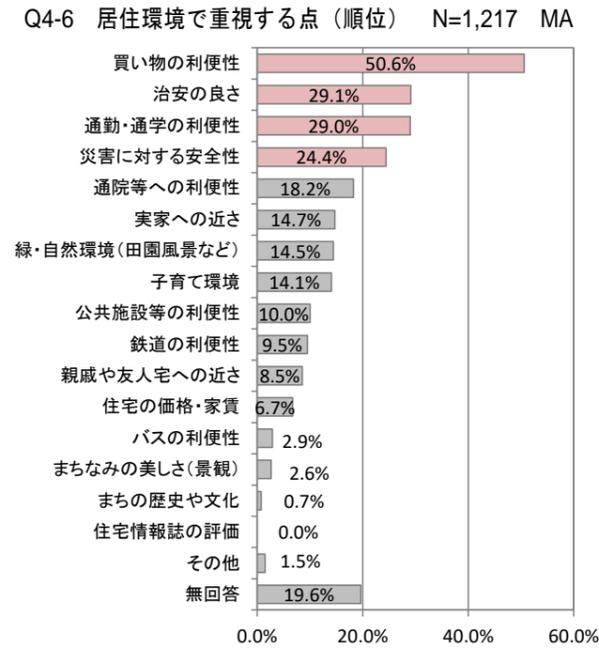
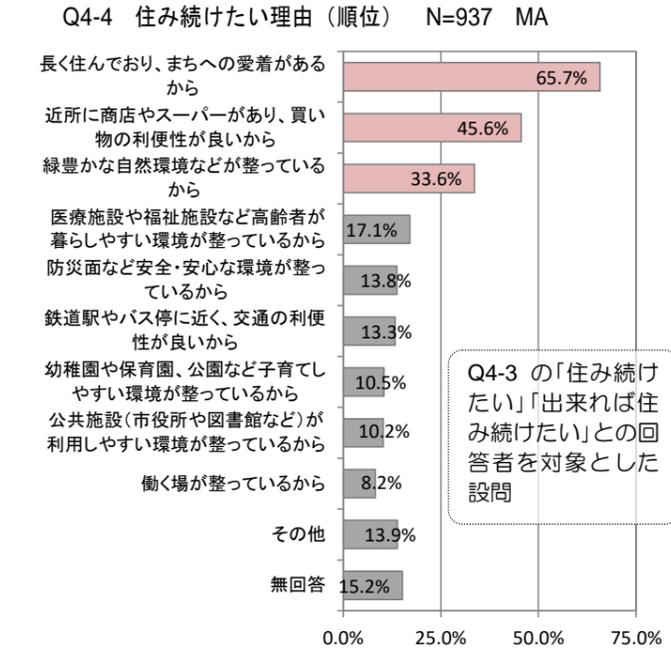


■居留意向等

- ・市内居住のきっかけは、「生まれ育った」が最も多く、次いで「結婚出産」、「住宅購入」が続く。
- ・居留意向は高く、「ずっと住み続けたい+出来れば住み続けたい」をあわせると8割近い人が住み続けたいという意向を示している。

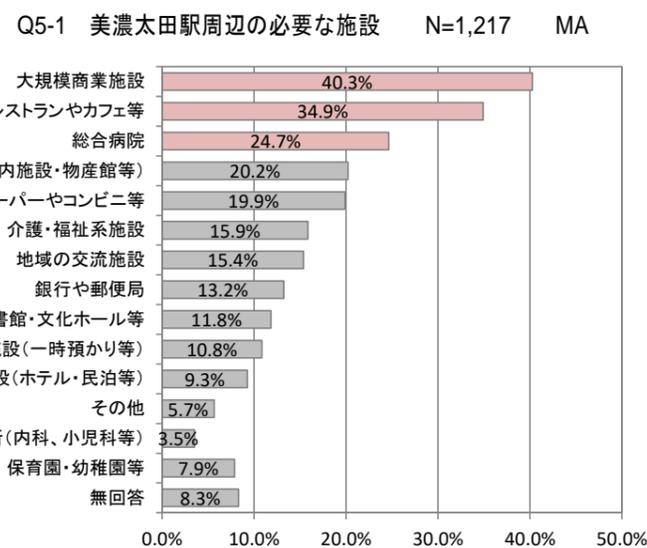


- ・住み続けたい理由は「まちへの愛着」や「利便性」、「豊かな自然環境」が上位にきている。
- ・重視する居住環境については、「買物利便性」「治安の良さ」「通勤・通学利便性」「災害に対する安全性」が上位にきている。



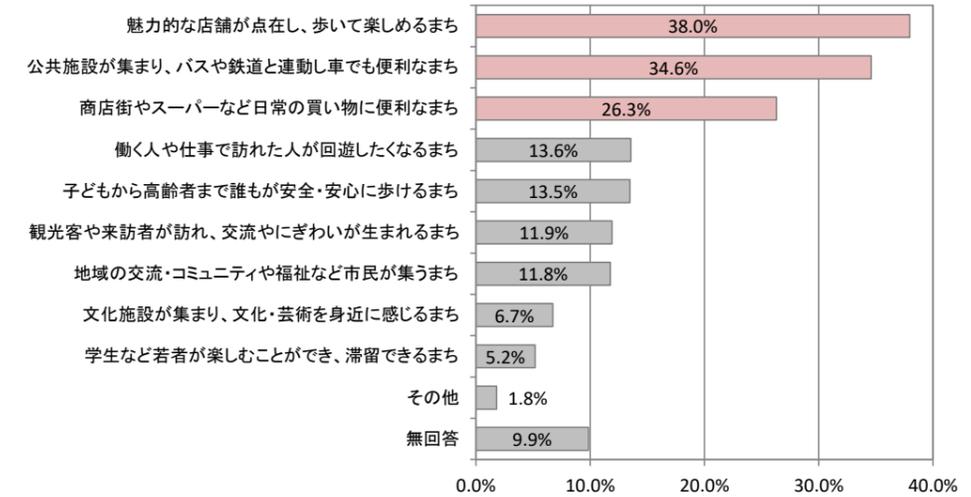
■美濃太田駅周辺について

- ・美濃太田駅周辺への必要機能・施設は、「大規模商業施設」、「レストラン・カフェ」、「総合病院」、「観光案内・物産館」、「スーパー・コンビニ」、「福祉施設」が主なものとなる。



- ・美濃太田駅周辺がどんなまちになるとよいかでは、「歩いて楽しめるまち」、「公共施設等が集まる便利なまち」、「買い物に便利なまち」等が上位にきており、楽しい便利なまちへの期待が伺える。

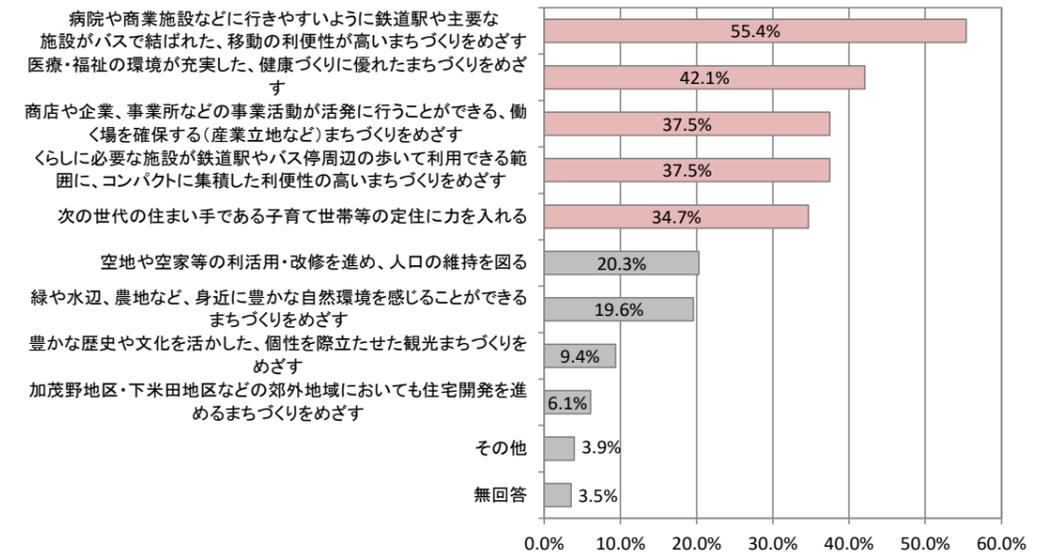
Q5-2 美濃太田駅周辺がどのようなまちになると良いと思うか N=1,217 MA



■今後のまちづくりの方向性

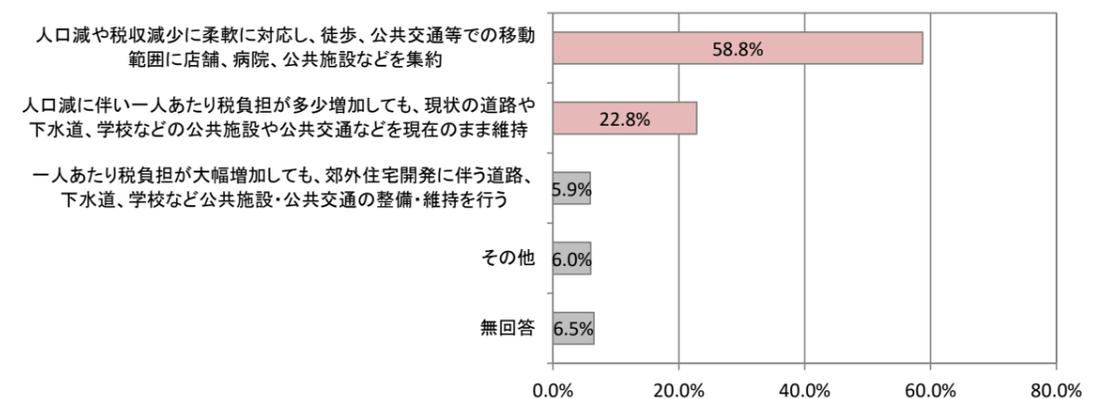
- ・美濃加茂の今後の目指すべきまちとしては、「移動の利便なまち」、「医療・福祉環境の充実」、「事業活動・働く場」、「生活利便施設がコンパクトに集積したまち」、「子育て世帯の定住促進」が上位にきており、生活利便性に優れ、働く場が整った安心して暮らせるまちへの期待が伺える。

Q7-1 今後の目指すべきまちづくりの方向性 N=1,217 MA



- ・美濃加茂の発展については、「歩いて・公共交通で暮らせる街」、「税負担増で現状を維持」が多く、大きな拡大はあまり望まず、現状を維持しつつ充実した利便性のあるまちが望まれている。

Q7-2 美濃加茂市の発展について N=1,217



## 地区別集計結果

各地区回答者数

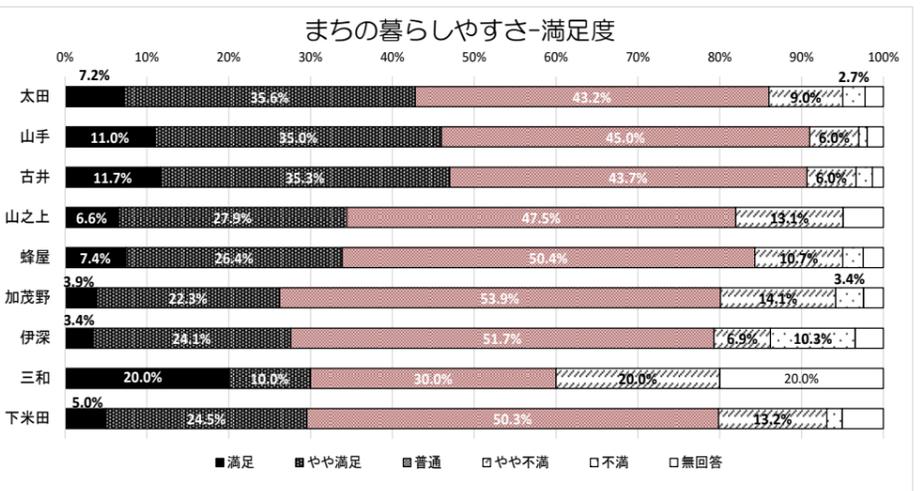
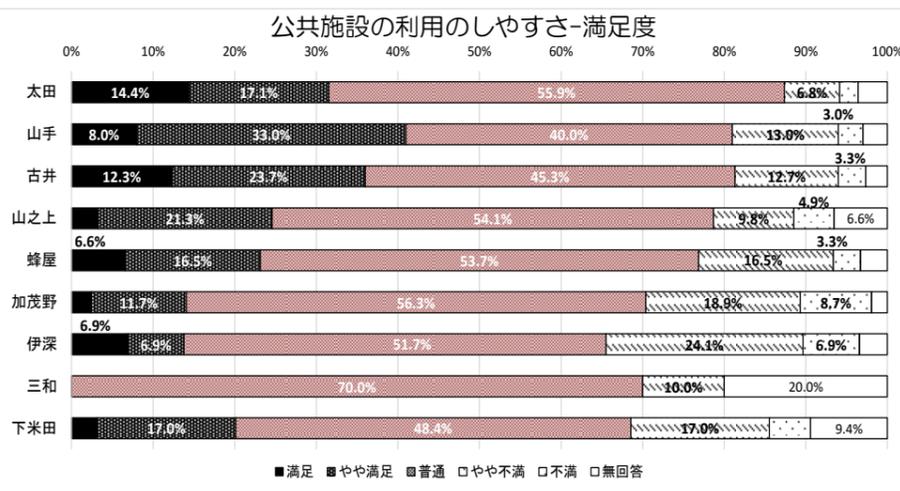
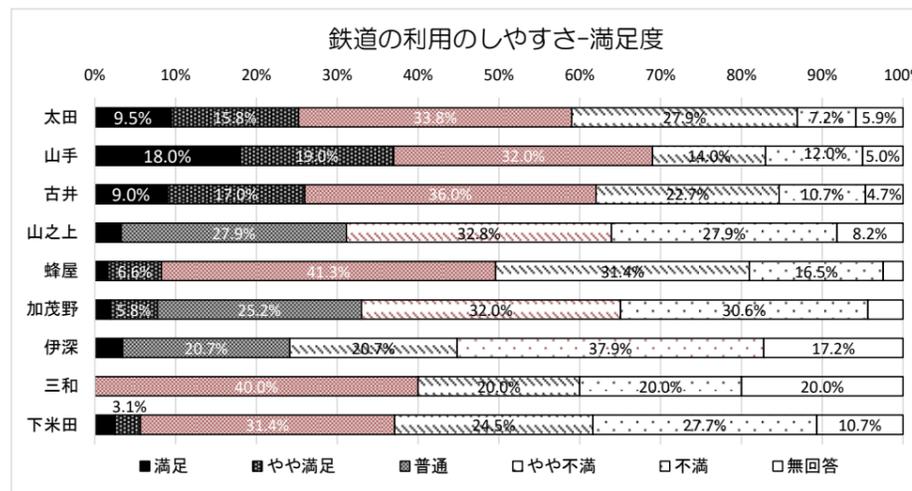
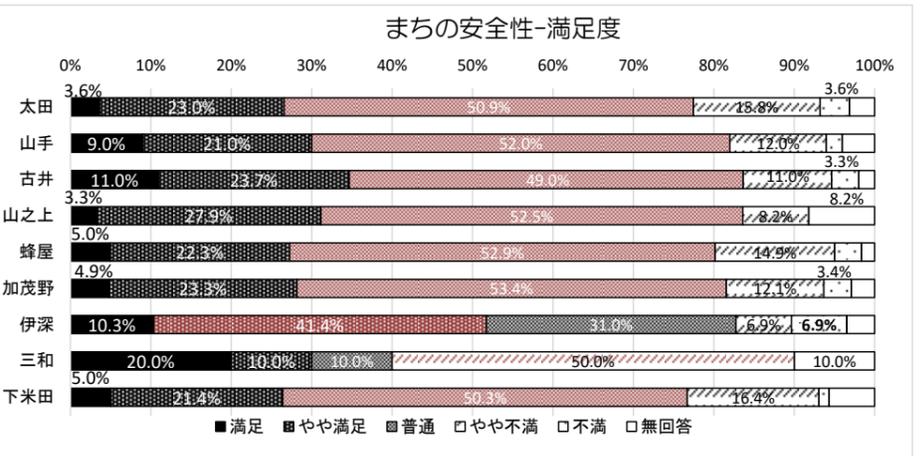
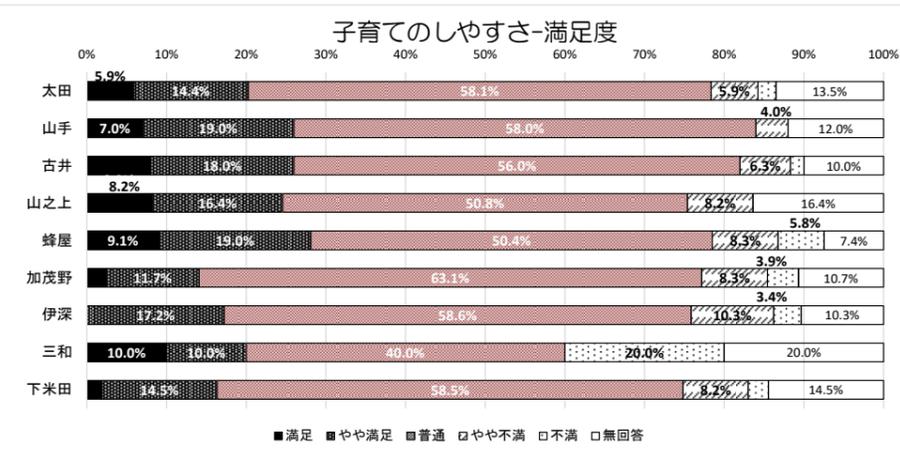
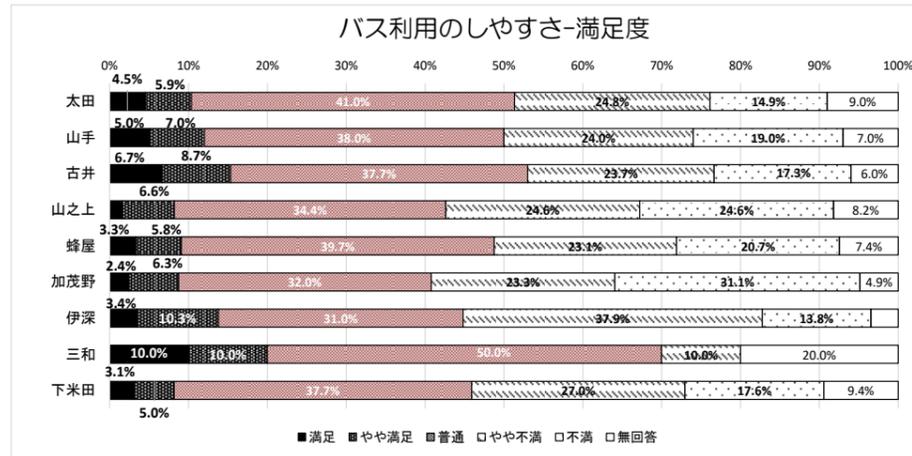
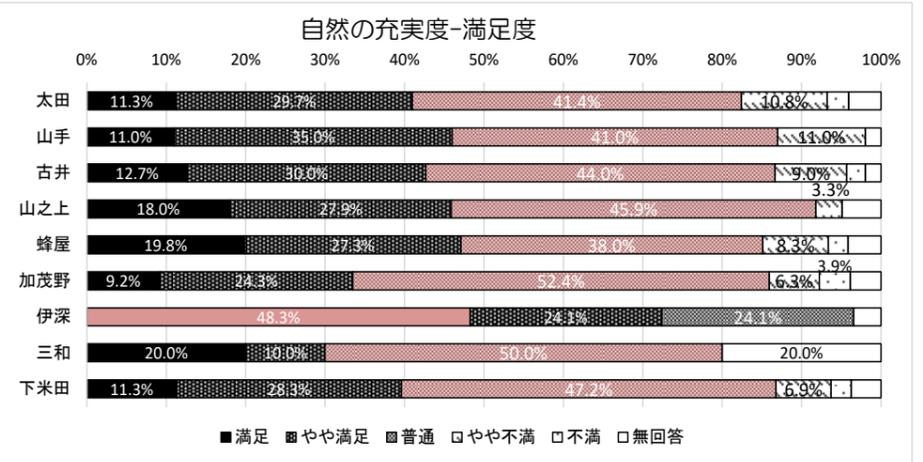
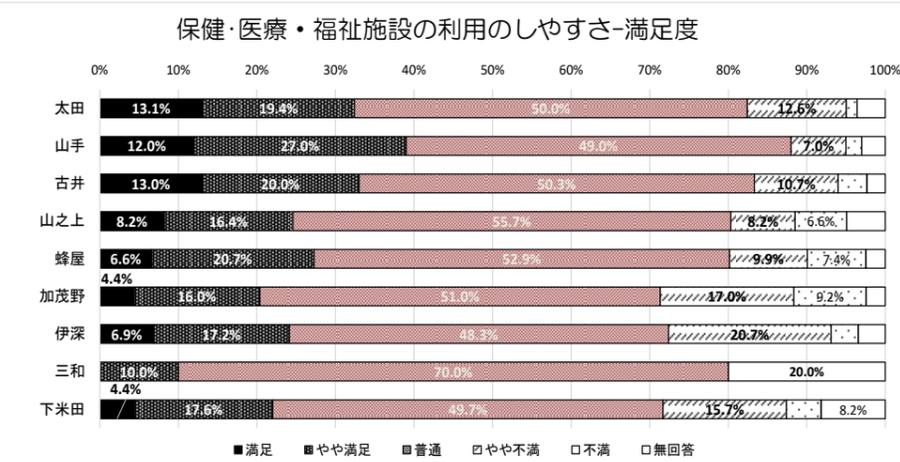
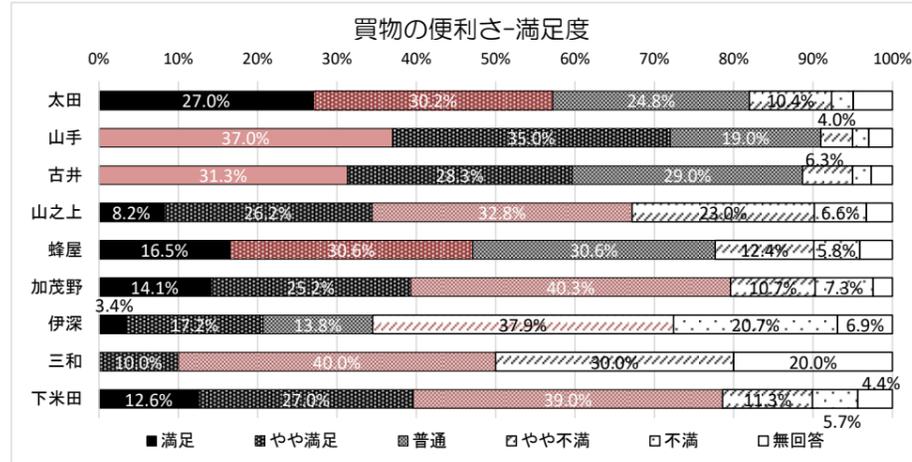
地区	太田	山手	古井	山之上	蜂屋	加茂野	伊深	三和	下米田	無回答
回答者数	222	100	300	61	121	206	29	10	159	9

### ■現状評価

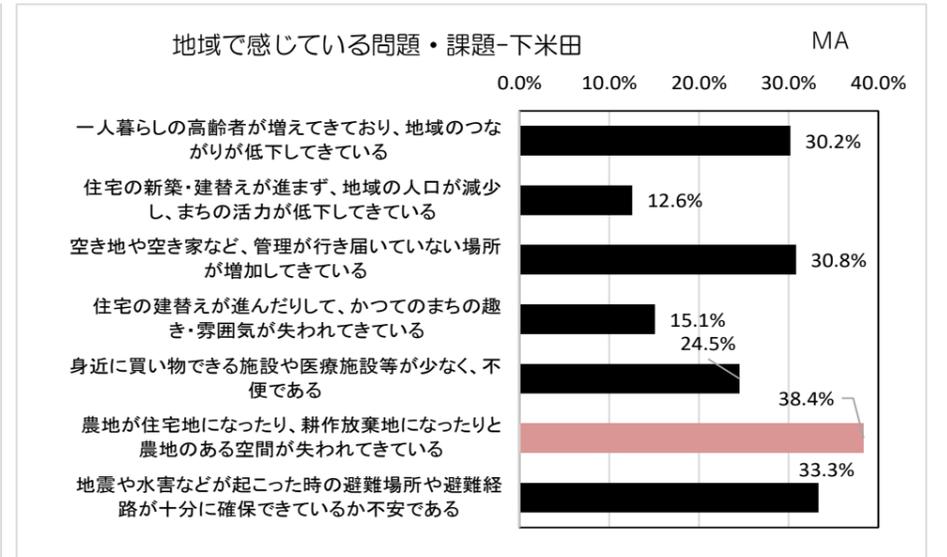
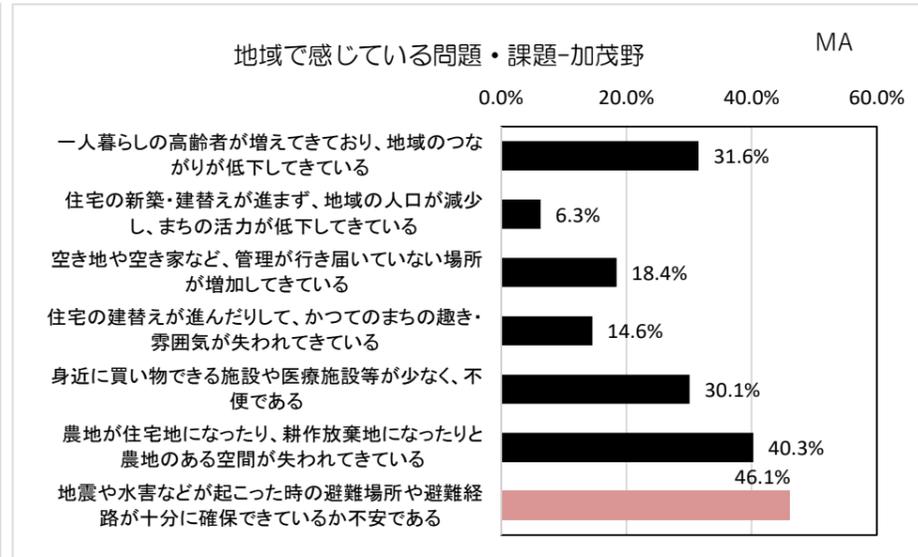
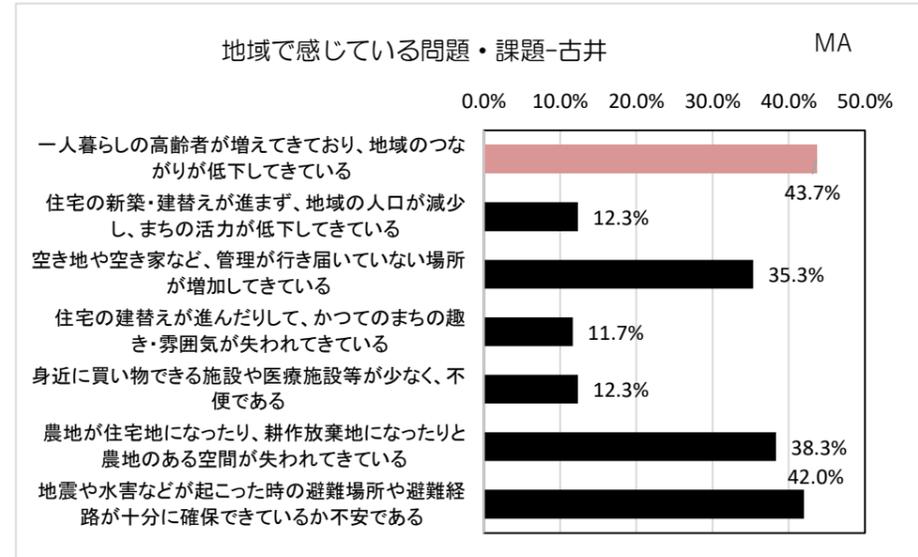
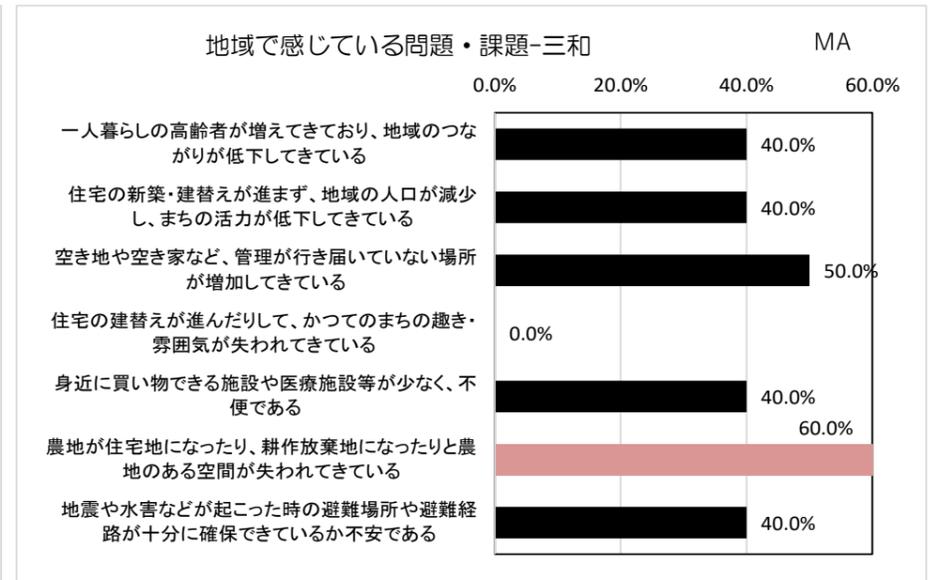
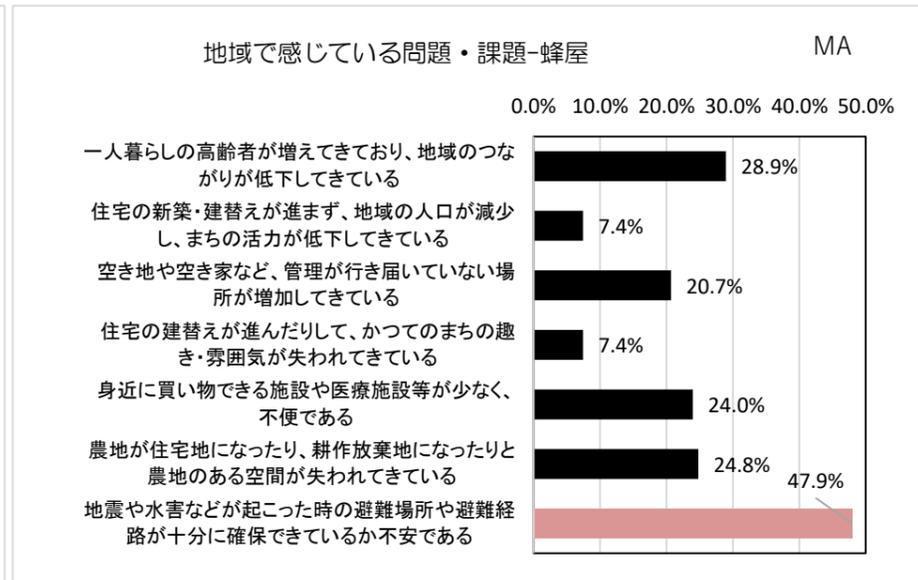
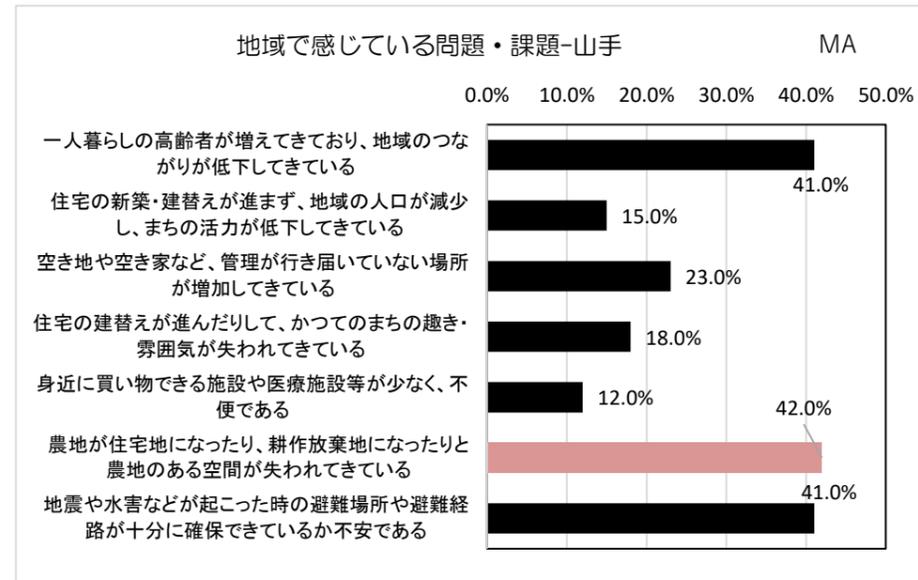
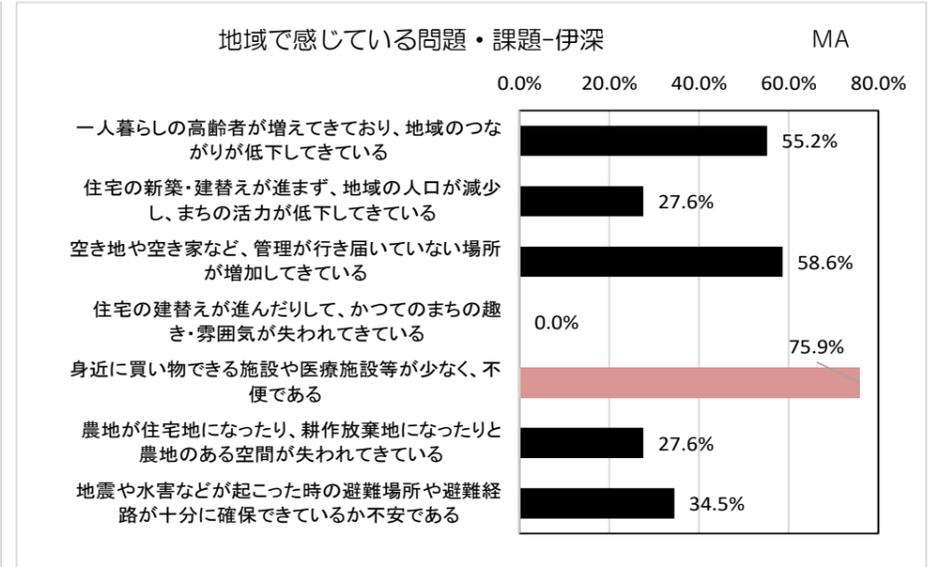
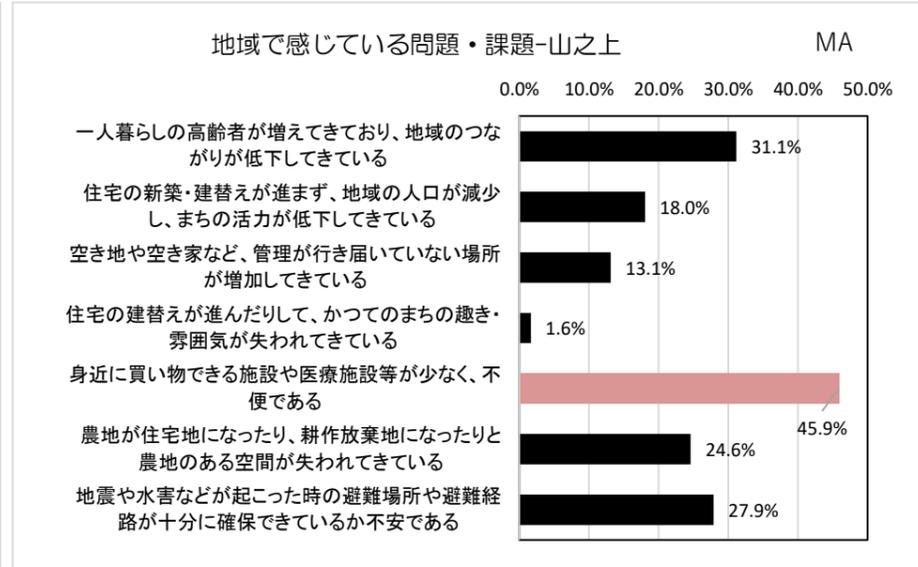
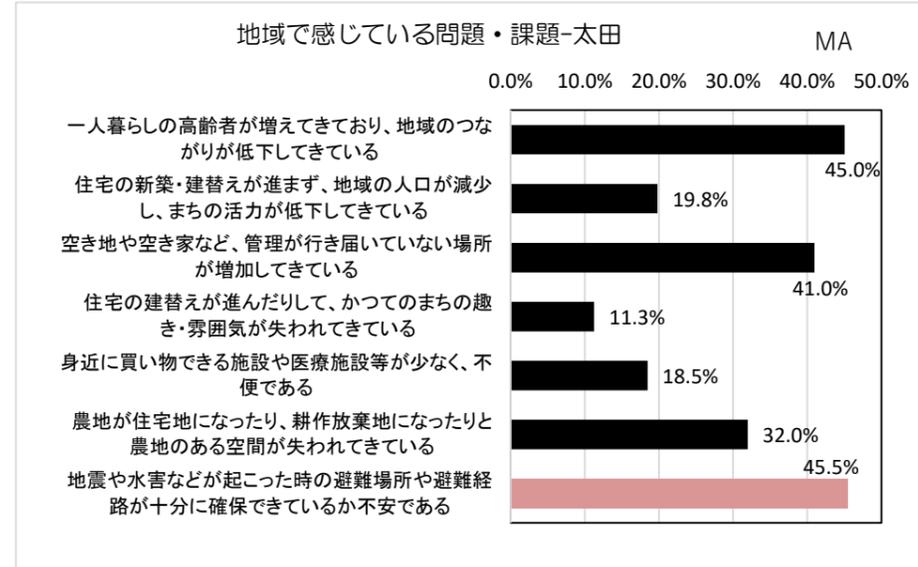
※以下のグラフの見方

各地区の第1位の回答を着色しています

- 地区別の結果としては、現状の満足度では、買い物などの利便性の点で市街地が高く、中山間地においてやや低くなっています。一方、自然の充実度などでは逆の傾向がみられます。
  - 地域の課題では、ほぼ同様の傾向がありますが、高齢化の問題が新しい住宅地ではやや少なく、旧市街地や中山間地で高い傾向がみられるほか、土地や家の管理の問題でも同様の傾向がみられます。
- ※地区別集計結果については、地区の回収数に差があり、母数の少ない地域においては、回答の結果が個別の回答に左右されるため、参考値としてみて頂く必要があります。



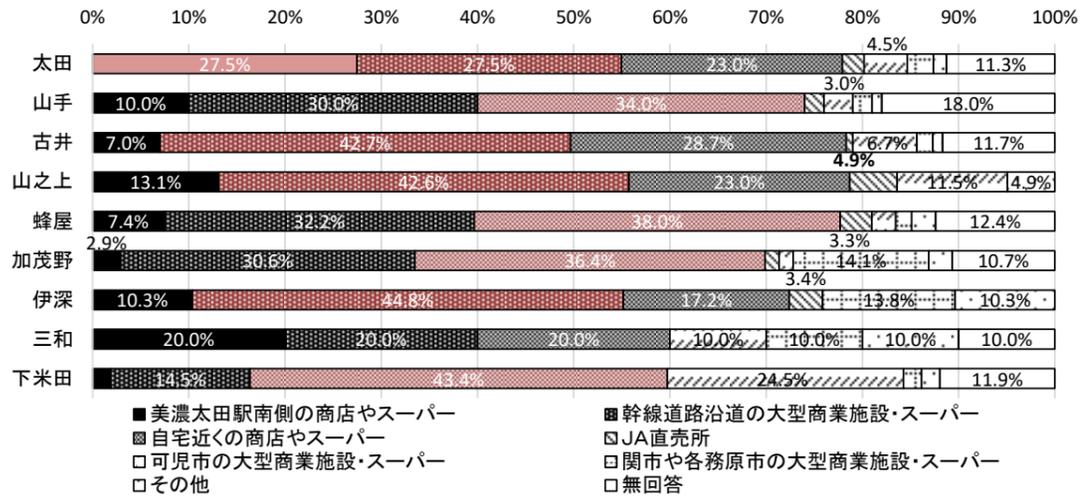
■地域感じている問題点・課題



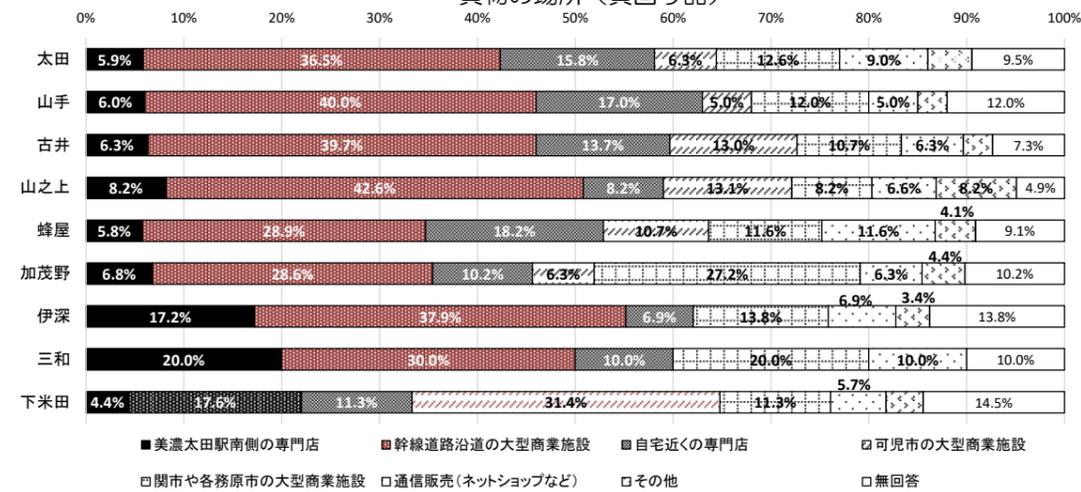
## ■ 普段の暮らし

- ・ 暮らしの面では、日常の買い物はほぼ市内で済ませており、買回り品になるとやや買い物先が市外などへの広がりが拡大しています。
- ・ 通勤通学先は、ほぼ市内及び近隣市となっています（無回答が多いのは回答者に高齢者など無職の方を含むためです）
- ・ 本市に住むきっかけでは、旧市街地周辺部において、結婚・出産や住宅購入が多くなる傾向がみられます。

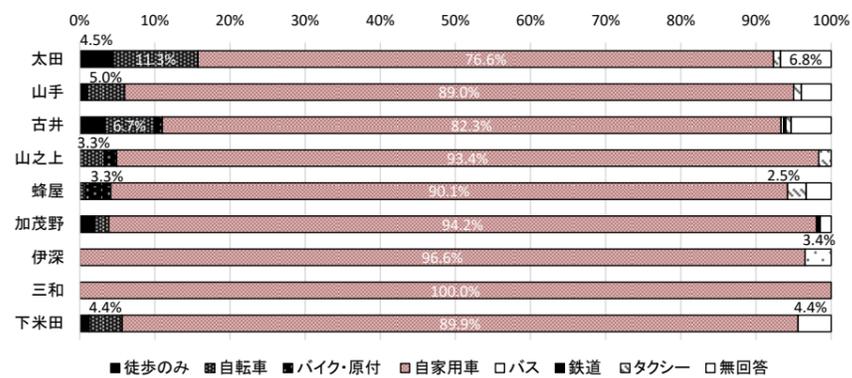
### 買物の場所（食料品・日用品）



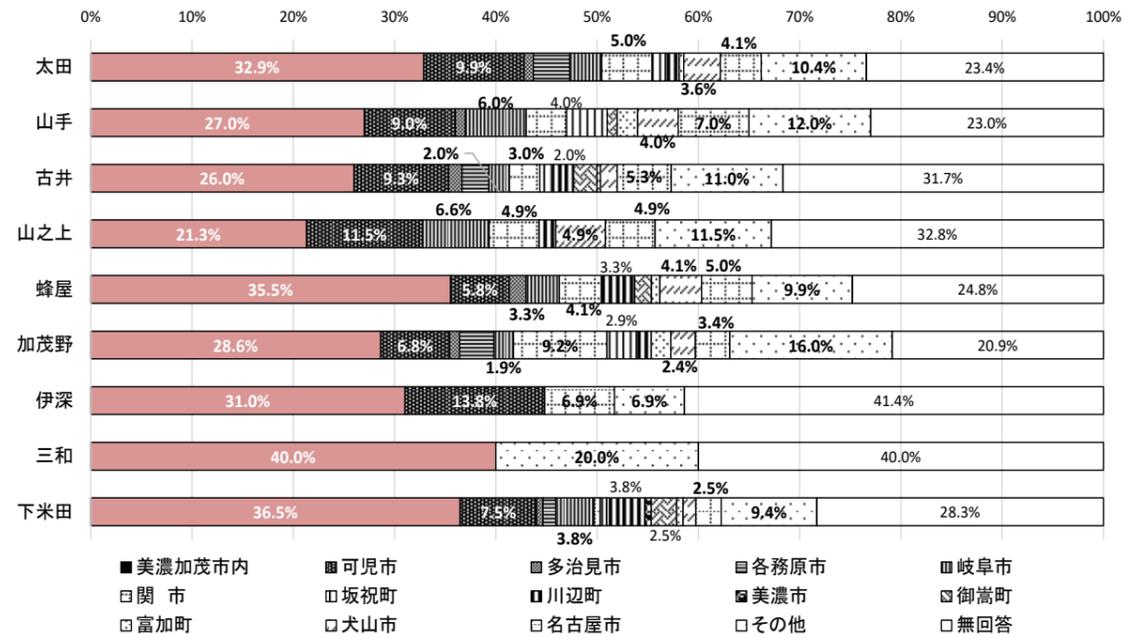
### 買物の場所（買回り品）



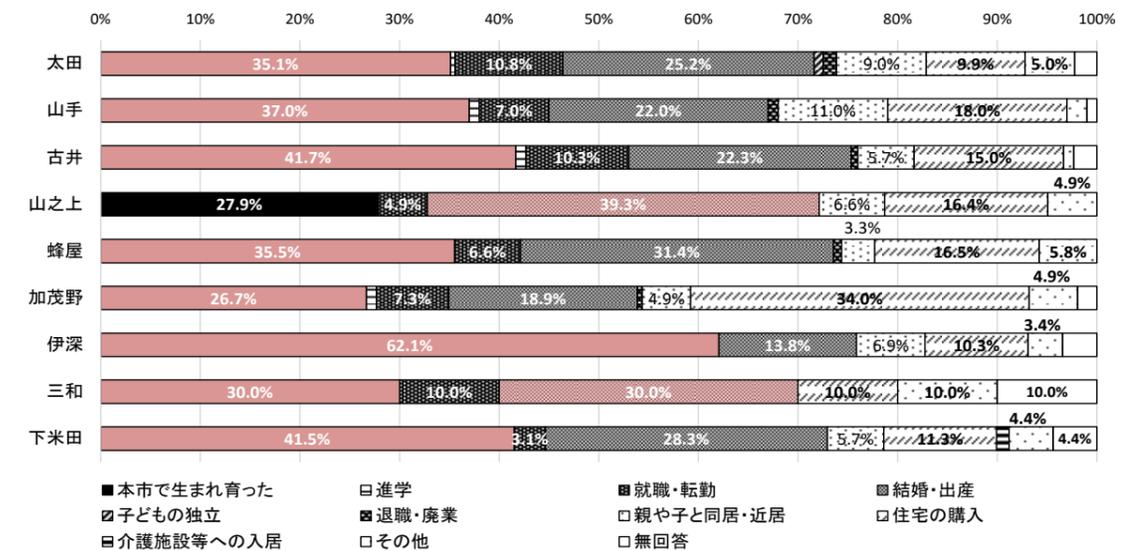
### 買物の交通手段（食料品・日用品）



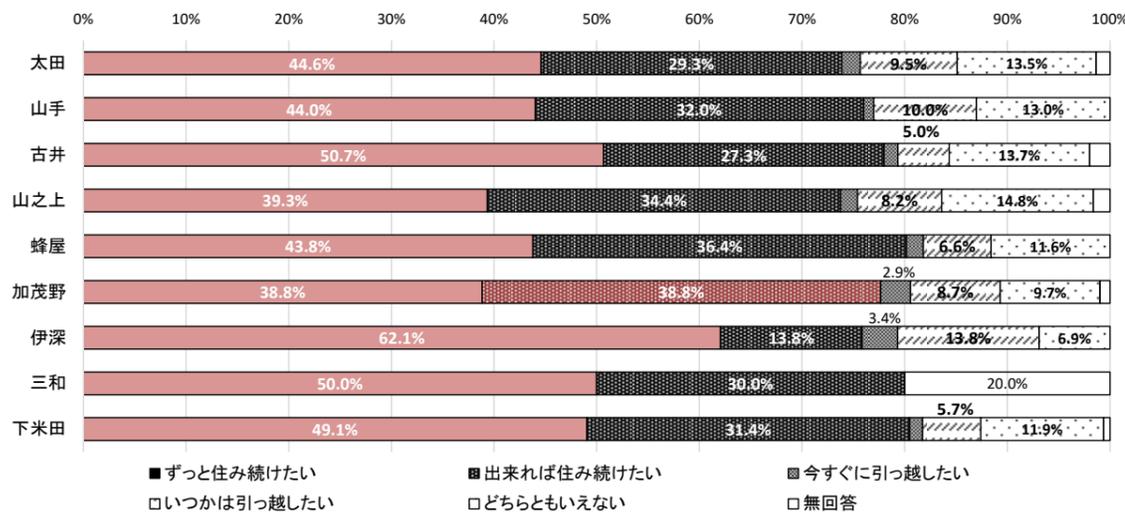
### 通勤・通学先



### 本市に住むことになったきっかけ



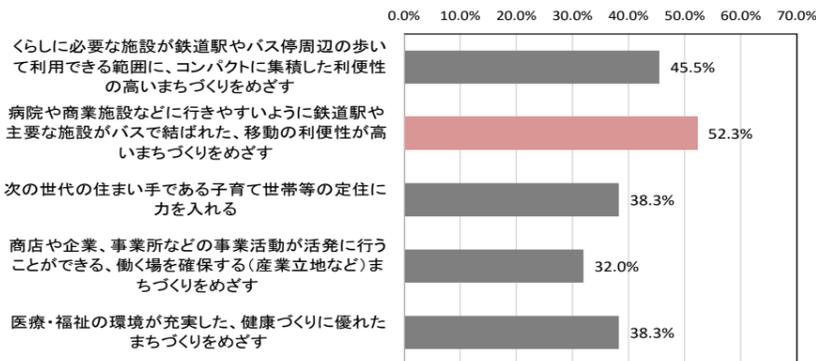
### 本市に住み続けたいか



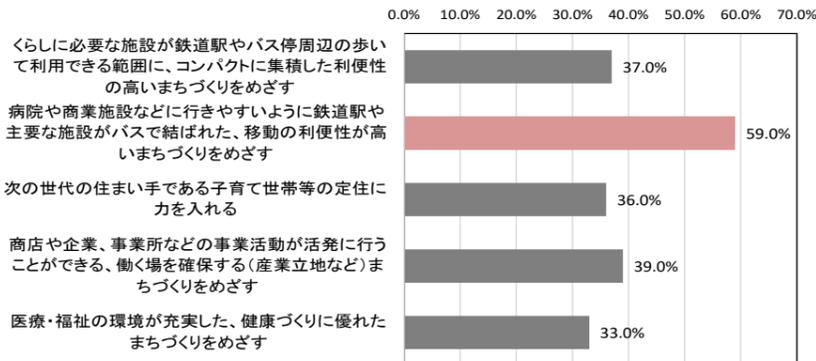
## ■人口減少・少子高齢化に対してのまちづくり

- 人口減少、少子高齢化委に対する今後のまちづくりでは、上位5位まででみると、移動の利便性の高いまちが共通に高く、次いで全体に医療・福祉・健康が、太田では歩いて暮らせるまち、下米田は定住など、地区により違いがみられます。

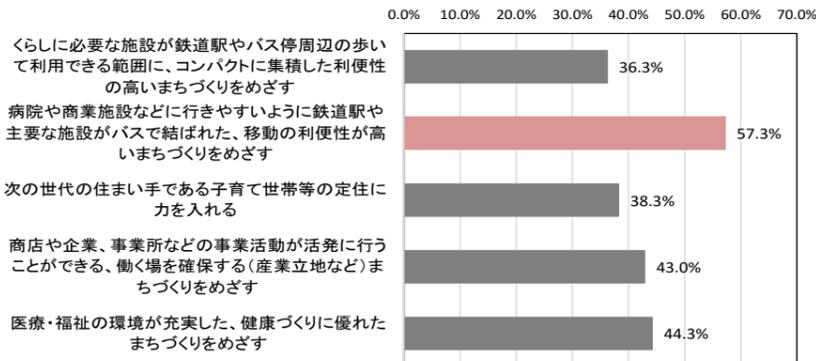
### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-太田 MA



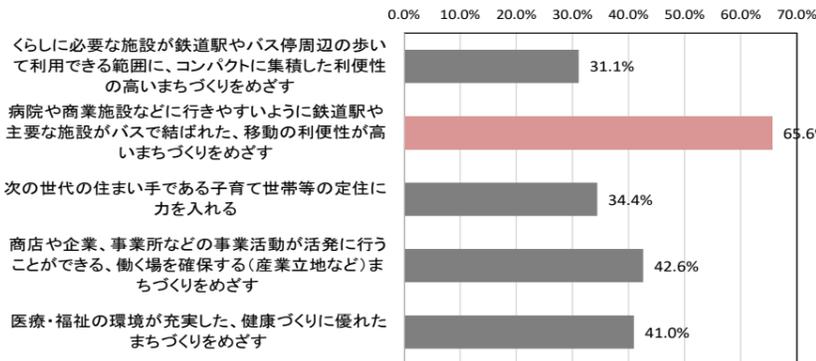
### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-山手 MA



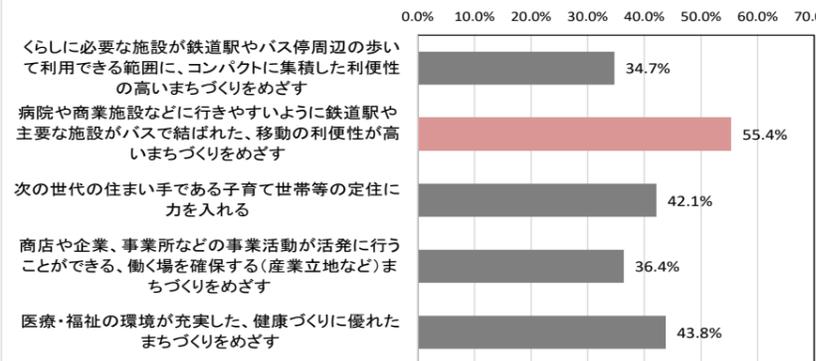
### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-古井 MA



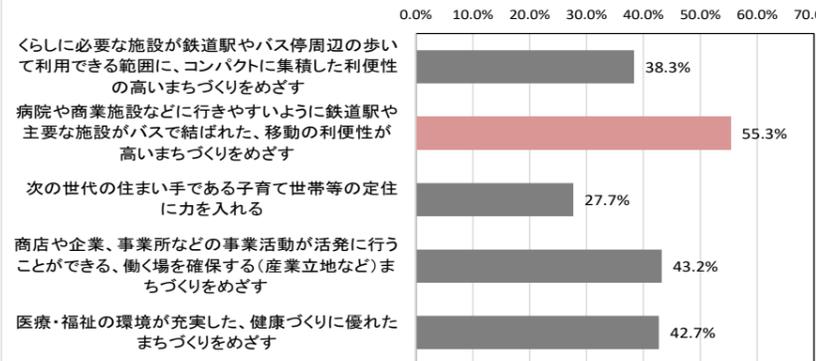
### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-山之上 MA



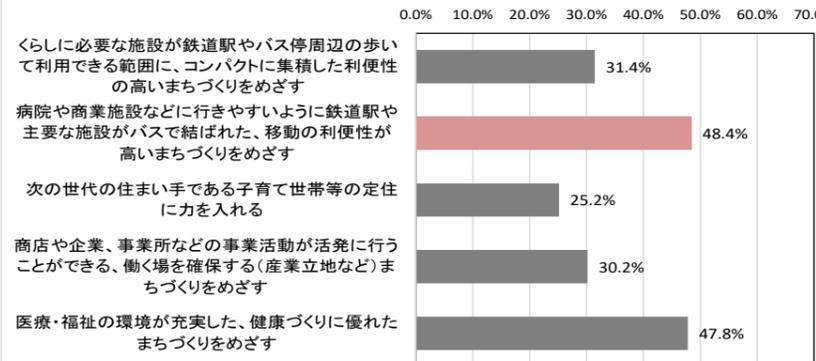
### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-蜂屋 MA



### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-加茂野 MA



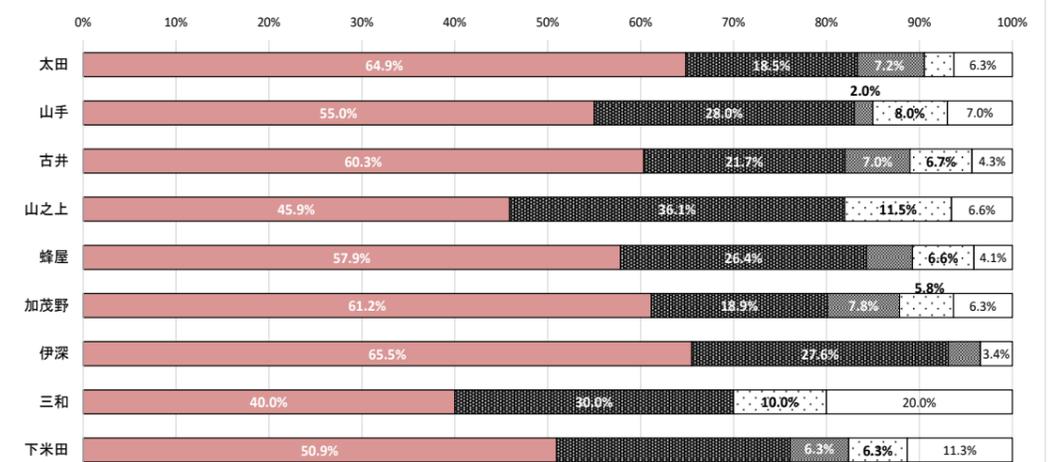
### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-下米田 MA



## ■美濃加茂市の将来的発展のために

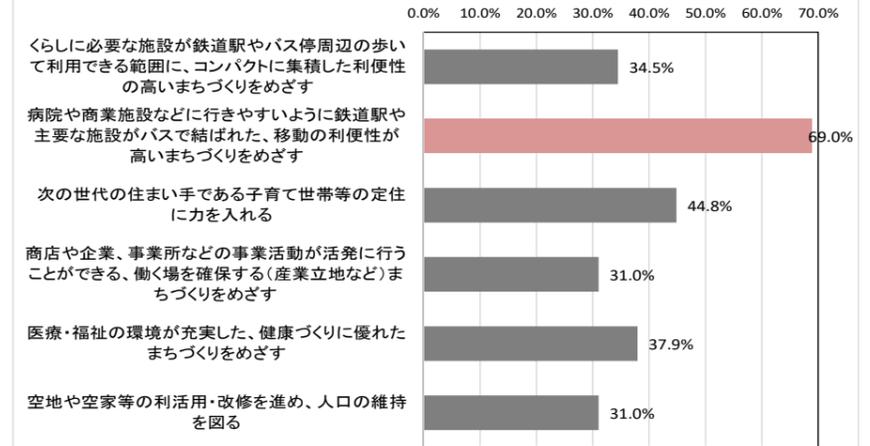
- 市の将来については、変化への柔軟対応を中心に、次いで税負担をしても現状の基盤や交通維持の意見は山之上、山手、蜂屋、伊深、下米田などで比較的高くなっています。

### 美濃加茂市の持続的発展のためには



- 人口減少や税収の減少等の変化に柔軟に対応していくため、徒歩あるいは公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集めるべきである
- 人口減少に伴って一人あたりの税負担が多少増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設や公共交通などを現在のまま維持していくべきである
- 一人あたりの税負担が大幅に増加しても、郊外型の住宅開発やそれに伴う新たな道路、下水道、学校などの公共施設・公共交通の整備・維持管理を積極的に行うべきである
- その他
- 無回答

### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-伊深 MA



### 人口減少・少子高齢化に対してのまちづくりについて-三和 MA

